

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ大阪	平成20年2月6日	水野 倫理	〒550-0014 大阪市西区北堀江2-14-3 (電話) 06-6537-4333				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 水野学園	昭和58年4月1日	水野 孝彦	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-29-2 (電話) 03-3499-0350				
目的	ジュエリーデザイン科ウォッチメーカーコースは、時計業界において、多様な時計の構造ならびにその修理技術、外装知識、商品知識を持った人材を育成することを目的とする。						
分野	課程名	学科名	専門士		高度専門士		
文化・教養	ジュエリー専門課程(文化教養)	ジュエリーデザイン科(ウォッチメーカーコース)	平成21年文部科学省告示第21号		0		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2168	140	0	2300	0	0
単位時間							
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
60人	36人	2人	6人	8人			
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価基準は、90点以上をA、80点以上90点未満をB、70点以上80点未満をC、60点以上70点未満をD、59点以下はF(不可)とする。また評価には値しないが習得レベルに達したと判断された場合はPとする。 成績評価は、課題物評価、試験等により行う。		
長期休み	■学年始:4月1日～4月14日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月20日～1月10日 ■学年末:2月17日～3月31日		卒業・進級条件		学校長および教職員による卒業・進級判定会議において認定されること。以下の①～④を総合的に判断して認定する。 ①課題物評価 ②出席率 ③授業態度 ④成績 ・学費を完納していること。		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 電話・メールでの連絡、担任面談、自宅訪問、保護者連絡 など		課外活動		■課外活動の種類 技能五輪大会参加・学園祭・海外研修旅行 など ■サークル活動: 無		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 (株)ウオッチラボ、(株)エムヴィ、(株)オオミヤ など ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 85.7% ■その他 なし (平成 29年度卒業者にに関する 平成30年5月1日 時点の情報)		主な資格・検定等		時計修理技能検定 【3級・2級】 ウォッチコーディネーター検定		
中途退学の現状	■中途退学者 2名 平成29年4月1日 在学者 36名 (平成29年4月1日 入学者を含む) 平成30年3月31日 在学者 34名 (平成30年3月31日 卒業者をを含む)		■中退率 5.6%				
	■中途退学の主な理由 経済上の理由、健康上の理由、履修上の理由 など						
	■中退防止のための取組 担任制、出席状況・課題提出状況を書いた保護者通知の発送(年2回)、学校長メールアドレスの全学生公開、専門医によるカウンセリング、学生相談、個人面談 など						
ホームページ	URL: http://hiko-osaka.jp/						

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

時計業界において、多様な時計の構造ならびにその修理技術、外装知識、商品知識を持った人材を育成するために、同業界の企業と連携して以下の①～④を踏まえた教育課程の編成を行う。具体的には、新たな科目の設定、既存科目の内容・教育手法の改善、教材の開発、時計修理・修理受付、時計研磨、時計販売等に必要となる知識や技術など実践的かつ専門的な職業教育の実施に向けた協議・検討することを基本方針とする。

- ①腕時計を中心とする時計の構造とメカニズムの理解力の育成
- ②一般機械式時計から複雑機械式時計、クォーツ時計の分解・修理・組立に関する技術力の育成
- ③時計の外装知識や外装デザイン、研磨に関する知識と技術力の育成
- ④商品の販売に関わる流通や店舗企画力、顧客対応力の育成と、関連する商品知識の習得

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成30年5月1日現在

名前	所属
松本 薫 様	一般社団法人 日本時計輸入協会 専務理事
清 順一 様	株式会社ウォッチラボ 代表取締役

(開催日時)

第1回 平成30年2月21日 14:00～15:00

第2回 平成30年8月29日 14:00～14:30

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

多様化するジュエリーマーケットの現状を把握し、業界において即戦力をもった人材を育成するために、連携する企業より商品の企画から製品化までの流れを享受ならびに学生作品の評価を受けることを基本方針とする。

科目名	科目概要	連携企業等
時計概論 (時計概論1)	時計の基本構造と部品名称、時計の歴史を学習する。	ブライトリング・ジャパン株式会社

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

実務に関する知識、技術、技能などの向上のため、人材開発や教育指導力の教育専門機関による研修、各業界から専門家を招聘しての専門技術・専門知識の研修を研修規定に則して計画的に実施する。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成30年5月1日現在

名前	所属
松本 薫 様	一般社団法人 日本時計輸入協会 専務理事
清 順一 様	株式会社ウォッチラボ 代表取締役

(学校関係者評価結果の公表方法)

http://hiko-osaka.jp/quickcode/hiko/themes/osaka_pc/common/css/images/about_info/osaka_h28_hyouka.pdf

5. 情報提供

(情報提供の方法)

http://hiko-osaka.jp/quickcode/hiko/themes/osaka_pc/common/css/images/about_info/osaka_h28_jouhou.pdf

授業科目等の概要

(ジュエリー専門課程ジュエリーデザイン科 ウォッチメーカーコース) 平成30年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			時計技術Ⅰ-1 (外装研磨1)	バフを使用してナットと工具の仕上げ研磨の基礎を学習する。	1前	32			○	○		○		
○			時計技術Ⅰ-2 (外装研磨2)	バフを使用して裏ぶた、バンドなど時計外装研磨を学習する。	1後	32			○	○		○		
○			時計技術Ⅰ-3 (機械式時計実習1)	機械式時計ETA6497の構造とオーバーホール技術を学習する。	1前	112			○	○		○		
○			時計技術Ⅰ-4 (機械式時計実習2)	自動巻カレンダー付き時計ETA2824-2の構造とオーバーホール技術を学習する。	1後	112			○	○		○		
○			時計技術Ⅰ-5 (機械式時計調整実習1)	歯車の修正法「歯車の振れ取り」を学習する。	1前	32			○	○		○		
○			時計技術Ⅰ-6 (機械式時計調整実習2)	穴石調整器を使用してアガキ調整法を学習する。	1前	32			○	○		○		
○			時計技術Ⅰ-7 (機械式時計調整実習3)	脱進機調整基礎として脱進機誤差と安全作用の爪石調整法を学習する。	1前	32			○	○		○		
○			時計技術Ⅰ-8 (機械式時計調整実習4)	调速機基礎として、ひげぜんまい外端修正法を学習する。	1前	32			○	○		○		
○			時計技術Ⅰ-9 (試験対策1)	時計ETA6497の実技および筆記試験のためのトレーニング。	1前	48			○	○		○		
○			時計技術Ⅰ-10 (クォーツ時計実習1)	クォーツ時計ETA955の構造と測定方法を学習する。	1後	72			○	○		○		
○			時計技術Ⅰ-11 (工具製作1)	ドライバー・ピンセットの仕上げ修正方法を学習する。	1前	32			○	○		○		
○			時計技術Ⅰ-12 (工具製作2)	押さえ棒・探り棒の製作で工具の使い方を学習する。	1前	32			○	○		○		
○			時計技術Ⅰ-13 (時計旋盤実習1)	針押し・振れ見駒製作を通して時計旋盤の使用法を学習する。	1前	32			○	○		○		

○		時計技術Ⅰ-14 (時計旋盤実習2)	時計旋盤を用いた手バイト砥ぎと突っ切りバイト製作を通して、真鍮と炭素鋼の切削法を学習する。	1 後	32				○	○	○			
○		時計技術Ⅰ-15 (時計旋盤実習3)	時計旋盤を使用し、ETA6497時計の巻真製作法を学習する。	1 後	56				○	○	○			
○		時計技術Ⅰ-16 (試験対策2)	技能検定3級取得のため、電池交換とバンド駒詰め練習をする。	1 後	56				○	○	○			
○		金属加工実習Ⅰ-1 (基礎技法1)	糸ノコ・やすり作業によるすり合わせ法を学習する。	1 通	160				○	○	○			
○		金属加工実習Ⅰ-2 (基礎工具製作1)	てんぷ平置き台製作を通して、ロー付け技術を習得し、精密な穴あけ加工を学習する。	1 後	56				○	○	○			
○		金属加工実習Ⅰ-3 (基礎工具製作2)	真鍮ピンセット製作を通して、図面を読み取る力とカシメ技術を学習する。	1 後	40				○	○	○			
○		時計概論 (時計概論1)	時計の基本構造と部品名称、時計の歴史を学習する。	1 後	32		○			○	○	○	○	
○		学外研修	企業・工場施設・店舗などを見学し、専門知識を深める。	1 通	16				○		○	○		
○		特別セミナーⅠ	本学創立の歴史や学園の遍歴を通してその学園精神を学習する。	1 後	4		○			○	○	○		
	○	自主研修／自由制作	習得した技術をさらに向上させるため、自主的に研究・学習する。	1 通	136					○	○	○		
○		時計技術Ⅱ-1 (外装研磨3)	バフを使用して時計ケースの研磨、ヘアラインの付け方を学習する。	2 後	32					○	○	○		
○		時計技術Ⅱ-2 (機械式時計実習3)	国産時計SEIKO7Sの自動巻時計のオーバーホール技術を学習する。	2 前	32					○	○	○		
○		時計技術Ⅱ-3 (機械式時計実習4)	国産時計CITIZEN82の自動巻時計のオーバーホール技術を学習する。	2 前	32					○	○	○		
○		時計技術Ⅱ-4 (機械式時計実習5)	薄型手巻き時計ETA7001のオーバーホールを学習する。	2 前	32					○	○	○		

○		時計技術Ⅱ-5 (機械式時計実習6)	女性用サイズ時計ETA2671のオーバーホール技術を学習する。	2 前	48				○	○	○			
○		時計技術Ⅱ-6 (機械式時計実習7)	薄型自動巻時計ETA2892A2のオーバーホール技術を学習する。	2 前	48				○	○	○			
○		時計技術Ⅱ-7 (機械式時計実習8)	アラーム付き時計の仕組みを理解し、オーバーホール技術を学習する。	2 後	32				○	○	○			
○		時計技術Ⅱ-8 (機械式時計調整実習5)	脱進機調整応用として時計ETA6497およびETA2824の爪石調整法を学習する。	2 後	32				○	○	○			
○		時計技術Ⅱ-9 (機械式時計調整実習6)	调速機調整応用として、ひげぜんまい内端修正法を学習する。	2 前	32				○	○	○			
○		時計技術Ⅱ-10 (試験対策3)	自動巻き及びクォーツ時計の実技試験練習を学習する。	2 後	32				○	○	○			
○		時計技術Ⅱ-11 (クォーツ時計実習2)	アナログクォーツ式時計の基本構造を学習・理解し、製造会社より特徴的、且つ専門的な作業法を習得する実習を行う。	2 後	32				○	○	○			
○		時計技術Ⅱ-12 (工具製作3)	時計旋盤・その他工具を使い、ひげ玉抜き・きりの工具製作を学習する。	2 前	32				○		○			
○		時計技術Ⅱ-13 (時計修復実習1)	時計ETA6497の天真交換とたがね使用法を学習する。	2 前	72				○	○	○			
○		時計技術Ⅱ-14 (時計旋盤実習4)	時計ETA7001の現物合わせ巻真製作法を学習する。	2 後	32				○	○	○			
○		時計技術Ⅱ-15 (試験対策4)	技能検定取得練習として、国産クォーツ時計の巻き真交換とオーバーホール技術を練習する。	2 後	32				○	○	○			
○		金属加工実習Ⅱ-1 (外装部品製作1)	プレスレット駒製作を通して、ヒンジの構造を知り、複製を正確に作る技術を習得する。	2 前	112				○	○	○			
○		金属加工実習Ⅱ-2 (外装部品製作2)	実用を目的として、時計バックルの構造を理解し、製作方法を学習する。	2 前	144				○	○	○			
○		時計理論Ⅱ-1 (時計理論2)	時計の基本構造と各構造の動く仕組みを理論的に学習する。	2 前	32			○		○	○			
○		時計理論Ⅱ-2 (時計理論3)	時計に要求される性能、精度を理論的に理解し調整理論を学習する。	2 後	32			○		○	○			
○		外装知識Ⅱ-1 (設計製図)	図面作成ソフトを用い、限られた形とスペースの中で時計文字板の図面製作を学習する。	2 後	36				○	○	○			
○		外装知識Ⅱ-2 (ウォッチ企画)	ウォッチ製作のための企画書作成及びプレゼンテーション方法を学習する。	2 後	72				○	○	○			

○		外装知識Ⅱ-3 (市場調査)	時計ブランドを市場調査し、顧客層やブランドのターゲットなど時計市場の動向を学習する。	2 前	18				○	○	○		
○		外装知識Ⅱ-4 (ブランド研究)	時計ブランドについて個別研究し、時計ブランドの成り立ちについて学習する。	2 前	30				○	○	○		
○		外装知識Ⅱ-5 (外装知識講義)	時計の外装(ケース、文字板、プレス、ベルト)の素材、しくみと構造、デザインの学習をする。	2 前	36	○			○	○	○		
○		学外研修	企業・工場施設・店舗などを見学し、専門知識を深める。	2 通	16				○	○	○		
○		特別セミナーⅡ	卒業後の企業就職や独立に向けて、社会人としてのモノ作りとの取り組み方について学習する。	2 通	4	○			○	○	○		
	○	自主研修／自由制作	習得した技術をさらに向上させるため、自主的に研究・学習する。	2 通	136				○	○	○		
合計					50				2440 単位時間 (単位)				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件＝卒業までに必要な履修科目をすべて履修していること。 必修科目のすべてを履修していること。自由選択科目は対象外。 履修方法＝課題物評価では『F』以外、試験では70点以上で履修となる。		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	26 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。